

地域と農業を結ぶ、ふれあいと幹の発信源

Ag fresh

あぐれしゅ

4

2017. VOLUME.85



特集 更なる農家所得の増大、
JA管内10会場で地区別懇談会
経営体力の増強へ

みんなのよい食プロジェクトとは、
これから日本人にとって「よい食」
とは何かを、日本の農家とJAグループ、消費者のみなさんと一緒にになって
考え、行動していく運動です。



腕じまん

地域じまんのモノ語り



首都圏の視聴者にナガイモPR

～情報番組で機能性アピール～

当JA職員が2月27日放送のテレビ埼玉・マチコミ「おいしさまるごとマイスター(16:30~18:00)」に出演し、管内産ナガイモの優れた機能性などをPR、視聴者に消費を呼び掛けた。

同番組の出演は、取引先の浦和中央青果市場(埼玉県)を通じ、平成24年からの取り組み。年3回、指導・販売の担当職員と、サポート役の野菜ソムリエが出演し、健康な土づくりをはじめとする産地情報、優れた栄養価を生かしたレシピなど、10分間の枠内で紹介している。

同番組をきっかけに最近では、人気ホテル「パレスホテル大宮(埼玉)」で5月開催の青森県フェアに当JAブランド野菜「TOM-VEGE(トム・ベジ)」や、十和田湖和牛などが使用されることが決まった。

番組での様子と、この日「おいしい!」と絶賛されたレシピを紹介します。



▲パレスホテル大宮の副料理長と会談中

野菜ソムリエ 提供レシピ

皮つきがおいしい ナガイモのガーリック炒め



材料(4人分)

ナガイモ	250g	酒	大さじ2
あらびきウインナー	100g	塩	少々
ニンニク	1片	黒コショウ	少々
オリーブオイル	大さじ1	バセリ(ドライ)	少々

作り方

- ①ナガイモは皮つきのままトングで挟み、コンロの火で表面を炙ってから1cm幅の半月切りにする。ウインナーは1cm幅の薄切りにする。ニンニクは皮をむき薄くスライスする。
- ②フライパンにオリーブオイルとニンニクを入れて熱し、香りがしてきたらニンニクを1度取り出し、ナガイモとウインナーを入れて炒める。裏返して弱火にし、酒、塩、黒コショウを加えて蓋をして3分程度蒸す。
- ③蓋をとってニンニクを中に戻し入れ、水分を飛ばして表面をカリッと焼き上げたら器に盛りバセリを振って完成。



※IHの場合は、ながいもの表面をテフロン加工のフライパンで煮焼してください。



3月17日撮影

表紙写真紹介

- シリーズ 日本の農業に生きる後継者 Vol.62
けいしょうびと



上北支店管内 立崎 満さん(46)

紋子さん(33)

土地探しからスタート

長年、関東方面で内装業を仕事としてきた。就農を決意したのはUターン後、勤めた会社が「自分には合わない」。そう思っていた時、知人がトマト農家を紹介してくれたのがきっかけになった。国や自治体の青年就農給付金などを活用して、就農前2年間は、七戸町内の農園で研修してきた。

実家が非農家のため、耕す畑を探すところからのスタートだった。国の農地中間管理事業の条件が見合わず、実家周辺で空いている土地を見つける所有者を探しては一軒一軒、交渉して歩いた。そして土地を購入、100坪のハウス4棟を建て、ミニトマト、トマトを主力作物に、後作には葉物を中心に栽培している。

新規就農して3年目。現在、初めて挑んだハウスニンニクの管理、葉物の収穫作業に忙しい立崎さんご夫妻。「生育は順調。良質に仕上げ、軌道にのせたい」と意気込む。満さんは「農業を一生の仕事にし、人生の最期に自分が頑張ったと思える証しを残したい」の想いを強くする。

早く安定経営へ

妻の紋子さんと結婚して2年になる。パート勤めの傍ら、収穫・出荷作業などで満さんをサポートする。紋子さんは「お客様からの、おいしかったの言葉が何よりも嬉しい。リピーターも増えている」と話す。早くハウス1棟を任せられ、自分名義で野菜を出荷するのが目標だ。

課題を解決しては、また次の課題が出てくるの繰り返し。満さんは「壁を乗り越えた時の喜びはひとしお。早く安定経営につながるよう、日々精進していきたい」と話す。

プロフィール=たちざき みつる 東北町大浦
組合員=本人
家族構成/母、本人、妻
農業経営/トマト3ha、ミニトマト10ha、露地ニンニク3ha。

第8回 JA十和田おいらせ 牛肉まつり開催

開催日時:平成29年4月29日(土・祝日)
午前11時~午後3時まで

開催場所:十和田やさいセンター
(十和田市大字相坂字高清水1149)
※会場が十和田市相撲場から変更になりました。

◆唄と踊り(そのまんま美川そっくりショー)
須藤圭子歌謡ショー)、カラオケ大会、
お楽しみ抽選会などで、会場を盛り上げます。

参 加 チケット
十和田湖和牛350g、焼き道具一式貸与など、
1セット2,500円(税込)。

前売券 取扱所
JA本店畜産課、十和田市役所農林畜産課で
4月12日(水)から取り扱いしています。
当日は十和田湖和牛の牛肉即売会も行います。

※詳細については、当JA畜産課まで。

tel.0176-23-0332

ローン相談会(本支店のご案内)

金融部

教育資金、新築やリフォーム、自動車のご購入など、
組合員以外の方でもお気軽にご相談ください。

毎月第3日曜日
9:00~15:00

相談会場	地区
本店	十和田市内全域
下田支店	ももいし・下田
むつ支店	むつ・横浜町

4月 16日 5月 21日

※他の地区は、各支店が相談会場です。

農業機械・農業に関わる設備資金等の相談も承ります。
各種ローンの金利引下げキャンペーン実施中!



各種ローンがネットで仮申込みできます。
検索方法は「JAネットローン」で検索!!

もくじ contents
あぐれっしゅ vol.85 **4**

特集 4.5.6.7p

更なる農家所得の増大、
経営体力の増強へ
～JA管内10会場で地区別懇談会～

米穀畜産部より
・JA十和田おいらせ牛肉まつり開催4/29
金融部より
・ローン相談会 4/16(本支店で開催) ... 2p

継承人 表紙写真紹介 3p
・立崎 満さん 紋子さん(上北支店管内)

NEWS&TOPIC 地域の話題 8p
・利用者の更なる満足度向上へ
・特産イチゴ最高の出来
・青年部のポリシーブック完成 一ほか

あぐれっしゅ情報① 11p
・総務部 29年度 新人職員紹介
～未来のJA十和田おいらせを担う新しいチカラ～

あぐれっしゅ情報② 12p
・総務部 29年度 定期人事異動

information 14p
頭の体操 パズル?
・経済部…エーコープ銘茶
・米穀畜産部…子牛市場・理事会だより 一ほか
役員室のつぶやき

腕じまん
地域じまんのモノ語り 16p
・埼玉テレビでTOM-VEGE PR
～大宮・人気ホテルのフェアで使用～

J Aの概況 平成29年4月1日現在
正組合員数/6,808戸
准組合員数/5,124戸
役員数/25人
職員数(准職・嘱託含)/294人
貯金高/766億1,914万円
貸出高/164億3,835万円

農業者の所得増大、 経営体力の更なる増強へ

J A管内10会場で地区別懇談会



当JAは3月8日から10日までの3日間、管内10会場で地区別懇談会を開いた。組合員210人が出席するなか、平成28年度の事業動向として、販売・信用・共済など、子会社を含む全事業で計画通りの決算見通しであることを説明。新年度は、野菜の増反対に対する種子助成の継続など、農業者の所得増大に向けたJA自己改革等を一層進めていく。また、平成22年の合併以降、自己資本が10億3千万円増となり、組織の経営基盤の安定と強化が図られていることも報告された。今回の特集では、懇談会に出された主な質疑応答を紹介したい。

指導やさい部

国事業に乗ることができるなか、被災農家に対しても、再生産支援として種苗費1／2助成を受けた農家は、なぜJA単独支援の対象外とするのか。

できせんが、再生産に向けた資材をできる限り安く供給できるよう努めます。

かたがた被災農家に付して、再生産支援として種苗費1／2助成を理事会で決定しました。国の支援対象農家へは直接的な支援はできませんが、再生産に向けた資材をできる限り安く供給できるよう努めます。

- A** 米は顔の見える販売をめざすとあるが、具体的にどういう取り組みを計画しているのか。
- A** 「まっしぐら」などの業務用米は、全国的に引き合いが強いので、具体的な話はまだ検討中ですが、生産者と実需者との複数年契約により双方とも安心できる取り組みを考えています。また、関東や関西の実需者を産地に招き、現場を見ていただけて新たな取引につなげたいと考えています。
- A** 米の精算額について、途中の追加払いなどがあつて最終精算額が分かりにくい。JA価格が庭先よりも有利ということをアピールすべきではないか。
- A** 28年産米は11500円支払いましたが、最終精算額はさらにプラスとなるよう努めています。JA価格の有利性については、別チラシを作成して伝えるなど検討して参ります。
- A** 平成30年以降の国の米政策に対し、JAとして対策等を考えているのか。



- A** 県等が担当しています。減反はなくなるものではありませんし、今後の取り組みは、各市町村の再生協議会が方針を示していくこととなっており、JAも歩調を合わせ取り組んで参ります。
- A** 心としたGAPに取り組んだ経緯があり、あと少し改善するとGAP取得ができるところまでいきました。現在はGAP取得に向けてナガイモ、ニンニクの取り組みを内部で検討しています。
- A** ニンニク種子の自己確保が難しい。種苗の供給に力を入れて欲象となるのか。

農業技術センター（十和田）、治部袋農場（七戸）の2カ所で種子増殖していますが、これだけでは足りない状況にあります。新たに上北支店管内に1カ所圃場を設ける作業を進めています。生産者は購入した種子を自分で増殖する作業の継続をお願いし、JAとしても今後も種子確保に努めて参ります。

過去に十和田市でごぼうを中心としたGAPに取り組んだ経緯があり、あと少し改善するとGAP取得ができるところまでいきました。現在はGAP取得に向

農業技術センター（十和田）、治部袋農場（七戸）の2カ所で種子増殖していますが、これだけでは足りない状況にあります。新たに上北支店管内に1カ所圃場を設ける作業を進めています。生産者は購入した種子を自分で増殖する作業の継続をお願いし、JA

心としたGAPに取り組んだ経緯があり、あと少し改善するとGAP取得ができるところまでいきました。現在はGAP取得に向

長年、十和田おいらせミネフル野菜（TOM・VEGE）に取り組んできているが、今後はどのよくな取り組みで生産販売につなげていくのか。

機能性食品として扱うことも試みましたが、時期や生産者により個別成分にバラつきがあるため、統一した売込みが難しいです。今後とも、エグミの少なさ・糖度の高さなどを前面にアピールし有利販売に努めて参ります。

米穀畜産部

加工用米、飼料用米について、JAとしてどのような取り組みを計画しているのか。

A 国の政策により左右される状況です。経営試算したものを作成・配布しますので、参考にして判断をお願いします。加工用米は近年、酒米より冷凍米飯としての需要が高まっています。加工用米は、収入保険制度に加入できる条件を満たしていただきたい。

A 現在、事故担当5人は本店集約しており、時間的な対応は不十分かもしませんが、当JAの総合不良債権の回収は大幅に進んでいます。

A 合併年の平成22年と比較し、不良債権の回収は大幅に進んでいます。

A JAの事故対応が遅い。以前いた支店の事故担当がいなくなつたため、サービス面で悪くなっているのではないか。

A 現在、事故担当5人は本店集約しており、時間的な対応は不十分かもしませんが、当JAの総合不良債権の回収は大幅に進んでいます。

A JAの事故対応が遅い。以前いた支店の事故担当がいなくなつたため、サービス面で悪くなっているのではないか。

A 現場を理解した職員が減りつつあるので対応願いたい。金融部門に地元職員を置いてほしい。

A 適材適所で職員の人材育成に取り組んでいるところでありまして、3ヵ年計画で体制見直しを検討しながら、各現場に置いて不足のないような人員体制に努めています。

A ①JAの購買事業に関して、営業力を高めてJAの良さをアピールするようにしていただきたい。

A ②ダイコーンはJAの施設整備により順調に伸びているが、洗浄ライン機械等が古くて洗いが追いつかない状況にあり、機械更新をして欲しい。

A ③新規就農者17人の組織ができるところであり、JAとしても組織助成を検討していただきたい。

A ④精米所でフレコン出荷ができるよう、色彩選別機やフレコン袋導入にJA助成を検討願いたい。

A ⑤青色申告のJA手数料について、JA利用割合による手数料を緩和し安くしていただきたい。

5 : Agresh 2017.4

Agresh 2017.4 : 4

農業者の所得増大、経営体力の更なる増強へ

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」 「地域の活性化」めざす

平成29年度 JA自己改革への取り組み計画

1) 産地拡大対策事業の継続実施

作付面積の拡大部分に対する種苗費及び集荷費用の一部助成、土壤診断実績に対し診断料の一部助成をする。2月27日の理事会で決定し、対策費は総額2,500万円を見込む。

1. 種苗費助成

(1) 全地区対象品目助成

①ナガイモ：優良種苗更新として購入したムカゴ代金に対して1/3の助成を行う。

（ムカゴ購入費）【継続】

②ニンニク：農産登録面積が過去3カ年の最大面積より増加分に対して

50,000円/10haの助成を行う。【継続】

(2) 地区指定品目助成

①地区指定品目の農産登録面積が過去3カ年の最大面積より増加分に対して種苗費の一部を助成

【一部変更継続】品目別助成上限単価は以下の通り

品目別助成額

①ゴボウ	9,000円/10ha	⑧春菊	15,000円/10ha
②ネギ	30,000円/10ha	⑨パレイショ	25,000円/10ha
③ダイコン	15,000円/10ha	⑩一球入鶴立ボチャ	20,000円/10ha
④ニンジン	20,000円/10ha	⑪ホウレンソウ	15,000円/10ha
⑤トマト	30,000円/10ha	⑫イチゴ	30,000円/10ha
⑥キャベツ	15,000円/10ha	⑬インゲン	3,500円/10ha
⑦ソラマメ	30,000円/10ha		

(3) 助成要件

①農産登録の実施 ②JAより種苗購入
③JA出荷（JA平均単収以上であること）
④(1)(2)について、国・県・市町村及び、JA等から助成を受ける場合は、上記の助成上限単価との差額を助成する。

2. 健康な土づくり診断料助成（土壤診断料の一部助成）

①29年度の実績に対し1点500円の助成を行う。

【継続】

3. 集荷対策助成

農家宅から集荷場までのスチールコンテナ運搬を業者委託した場合、運搬料の1/3を助成【継続】

※助成要件①自宅にフォークリフトがある事

②1基当たりの助成上限は500円とする

◆申し込み・お問い合わせ先

各支店・事業所の営農担当、または指導やさい部まで

2) 担い手パワーアップアクションの展開

販売額500万円以上の農家を巡回し、意見・要望等を吸い上げ、JA事業に反映させる訪問活動を展開していく。

3) JA受託作業の充実

ダイコン、ニンジン、パレイショの収穫・共選作業のほか、ニンニク、ネギ、ゴボウ等の共選作業の充実を図る。

4) 外国人実習制度を活用した労働力確保

やさい共撰施設等の労働力不足を補うため、外国人実習制度の活用に努める（平成29年度十和田野菜センター5人、ももいし野菜センター6人）。

5) 購買事業におけるランク奨励の実施

予約購買の利用と肥料・農薬等奨励金のメリットを呼びかけ、生産農家のコスト低減を図る。

6) 組合員の加入促進に向けた取り組み

複数組合員制度PRによる正組合員加入を進めるほか、信用・共済事業等との連携により准組合員の加入促進を図る。

◆複数組合員制◆

正組合員加入を求む女性・後継者等に対し、複数組合員加入（1世帯複数加入）を進めていく。

①加入手続き…

イ) 加入申込書及び、本人確認書の提出（印鑑持参）
ロ) 出資金額の確認（4,000円以上）

②加入時の確認事項…

定款（第12条）に定める組合員資格の確認

イ) 10ha以上の耕作の確認（耕作証明書等）

ロ) 年間90日以上の従事日数の確認（加入申込書）

③出資金額の確認及び、出資増口のお願い…

※正組合員平均出資金額までの増口のお願い。

その他

●畜産経営特別支援対策

肥育素牛高騰による経営支援として預託金利を助成する。

①対象者…肥育預託素牛導入者

②助成内容…肥育預託金利1.2%全額を助成する。

③対象牛…平成29年度に導入した肥育預託素牛とする。

④助成額…5,700,000円

平成27年10月に開催された、第27回JA全国大会（実施期間：平成28～30年度）では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革を通じた「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立に取り組むこととしています。また、政府が求める農協改革に対し、当JAは次の通りのJA自己改革に向けた取り組みを策定・実践しています。



平成28年度 約2億4千万円の農家支援

～種苗費助成、利用還元など～
※すべて税込

● 購買供給分に対する奨励金 ●

（平成28年6月1日～29年1月31日分まで／支払月日：平成29年3月29日）

◆ 作付面積の増反分に対する種苗費助成

対象280戸（実戸数）に総額12,539千円の種苗費助成を実施。ナガイモ・ニンニクなど、合計68.3haの作付面積拡大を図った。
詳細は次の通り。

品目	戸数	増反面積(ha)	品目	戸数	増反面積(ha)
ナガイモ	170	31.5	ゴボウ	17	5.6
ニンニク	49	4.5	ニンジン	29	10.3
ネギ	10	1.5	キャベツ	6	0.9
ダイコン	5	2.3	その他	15	11.7
			合計	280	68.3

◆ 土壤診断助成

対象1,034件、3,641点に対し、総額192万円の診断料助成を実施。

● やさい集荷対策金 ●

（平成28年1月1日～12月31日分まで／支払月日：平成29年3月22日）

対象1,693戸に総額69,854千円を支払い。

● 台風等被害に対する当JA単独の支援措置 ●

（支払月日：平成29年3月22日）

国の支援事業の対象とならなかった農家913戸（実戸数・557戸）、次期作に必要な種苗費の一部助成（1/2助成）として総額28,523千円を支払い。19品目、対象面積406ha。

● 米大型施設の利用高還元 ●

入庫量助成として、総額23,954千円を支払い。

● 酪農経営特別支援対策 ●

性別別精液購入経費助成として、総額554千円を支払い。

● 畜産経営特別支援対策 ●

預託金利全額助成として、総額4,000千円を支払い（見込み。平成27・28年度実施事業）。

● 生産振興会等助成 ●

各生産組織への活動助成として総額32,550千円を支払い。

● 平成28年度 固定資産取得及び整備状況 ●

施設名	事業費(千円)
大豆乾燥調製施設能力増強工事	88,470
資材配送センター倉庫新設	83,400
金融ATM機 6機更新	13,200
赤沼CE湿式集塵装置補修工事	7,222
小川原RC粉殻庫改修工事	6,944
野菜用スチールコンテナ 300基	6,000
大豆センター汎用コンバイン	5,694